

◆ソニー：グローバルシャッター機能を実現する画素並列A/D変換器搭載裏面照射型CMOSイメージセンサーを開発

ソニーは、新開発のA/D変換器を画素毎に配置し、全画素同時に露光したアナログ信号を各々即座にデジタル変換（画素並列A/D変換）することで、グローバルシャッター機能を実現した。

有効画素数146万画素の裏面照射型CMOSイメージセンサーを開発した。本成果は、2018年2月11日（日）から米国サンフランシスコで開催されているISSCC（国際固体素子回路会議）において発表した。現在のカラムA/D変換方式のCMOSイメージセンサーは、画素で光電変換したアナログ信号を行毎にA/D変換して読み出す為、行毎の読み出し時間のずれによる画像の歪み（フォーカルプレーン歪み）が発生していた。本開発品は、新開発の低電流動作可能で小型のA/D変換器を全ての画素の下に配置し、全画素同時に露光したアナログ信号を各々即座にデジタル変換（画素並列A/D変換）した後に、デジタルメモリーで信号を一時保持する。これにより、行毎の読み出し時間のずれによるフォーカルプレーン歪みを解消し、100万画素以上の高感度な裏面照射型CMOSイメージセンサーでは、業界で初めて画素並列A/D変換器によるグローバルシャッター機能を実現した。

【問い合わせ先】

ソニー株式会社

Sony.Pressroom@sony.co.jp

◆アビッドテクノロジー：NBC Olympics、2018年平昌オリンピックのためのコンテンツ制作とメディア管理のワークフローにAvidを採用

NBC Sports Groupの一部門であるNBC Olympicsは、2月9日から韓国・平昌で開催される第23回冬季オリンピック番組制作のコンテンツ制作とメディア管理のワークフローに、Avidを採用したと発表した。声明は、NBC Sports & Olympicsのポストオペレーションおよびデジタルワークフロー担当副社長、ダリル・ジェファーソン氏およびAvidの会長兼最高経営責任者（CEO）ルイス・ヘルナンデス・ジュニアの共同で発表した。

NBC Olympicsでは、メディア業界で最もオープンかつ緊密に統合された効率的なプラットフォームであるAvid MediaCentral®を選択することで、平昌オリンピック競技の番組制作において合理化・加速化を実現する。MediaCentralは、18日間連続して行われる平昌オリンピックの制作から配信までワークフロー全体の合理化を可能にする。

ジェファーソン氏は次のように述べています。「2018年平昌オリンピックでは、膨大な量のコンテンツを制作、管理、配信する必要があります。MediaCentralは長年にわたり、私たちのワークフローにおいて、不可欠な要素となっています。MediaCentralは、世界中に散らばる当社のチームメンバーがリアルタイムで共同作業を行うことを可能にします。その能力を生かすことで、高品質なコンテンツを迅速かつ効率的に作成し、冬季オリンピックの制作要求を満たすことが可能になります。」

ヘルナンデス・ジュニアは次のように述べている。「スポーツ放送局は、特に、冬季オリンピックのような複雑で大規模なイベントの場合、メディアバリューチェーンのあらゆる側面でワークフローを加速し、効率を最大化する必要があります。MediaCentralが、コンテンツ制作およびメディア管理ワークフローの中心となることで、NBC Olympicsは、より強力で効率的に視聴者に番組を提供することが可能になるでしょう。」

NBC Olympicsは、アルペン、フィギュアスケート、スピードスケートなど、すべての平昌オリンピックの競技場でAvidの包括的なツールとワークフローソリューションを使用する。MediaCentral | Production Managementによって、コンテンツ制作の管理、ワークフローの自動化、会場とIBCのスムーズな連携が可能となる。MediaCentral | Asset Managementにより、チームは迅速かつ容易にメディアアセットの検索、制作業務の合理化、コンテンツ作成機能の最大化を実現する。

NBC Olympicsは、ソフトウェア定義のストレージプラットフォームであるAvidNEXIS®も実装し、ノンリニア編集システムMediaComposer®を使用して数十の編集スイートに接続するプロダクションパイプラインを構築している

【問い合わせ先】

アビッドテクノロジー株式会社

mailto:kenta.otsuka@avid.com

◆テクトロニクス：NBC Olympicsが2018年平昌オリンピック番組制作にテクトロニクスのテスト機器を採用

韓国の平昌で開催される第23回冬季オリンピックにおいて、テクトロニクスが、NBC Sports Groupの一部門であるNBC Olympicsが使用するビデオ/オーディオ・テスト機器、ネットワーク・モニタリング機器を提供するメーカーとして選定された。



冬季オリンピック競技番組の制作は複雑であるため、高品質な番組を視聴者に届けるためには、高いレベルの性能と信頼性を備えたテスト/モニタリング・ソリューションが必要になる。そこで、NBC Olympicsはピョンチャン五輪用に、テクトロニクスのWFM7200型、WVR7200型、WFM5200型、WVR5200型の波形モニター/スタライザ、SPG8000A型マスタ・シンク/マスタ・クロック・リファレンス・ゼネレータを使用する。

631.5時間のリニア・テレビ放送、1,800時間のOTT番組を含んでおり、これらの機器はオリンピックにおけるNBC設備での番組制作、ポストプロダクション、伝送、配信のワークフローで、ビデオ/オーディオ・コンテンツ品質のモニタリング/テストのために使用される。UHD/4Kアプリケーションにおいては、NBCはWFM8300型

波形モニターを使用してさまざまなUHD/HDR フォーマット、ITU-R BT.2020 WCG (Wide Color Gamut)をサポートする。

NBC Olympics、ヴァイス・プレジデント、IBC エンジニアリングのテリー・アダムス氏は、次のように述べている。「NBCは、直近の9つのオリンピックにおいてテクトロニクスの製品を使用してきました。かねてよりシンク・ゼネレータと波形モニターに注目が集まっていますが、TS (トランスポート・ストリーム) モニタリングのニーズも急速に高まっています」

テクトロニクス、ビデオ・プロダクトライン、ジェネラル・マネージャのチャーリー・ダン (Charlie Dunn) は、次のように述べている。「実績のあるビデオ・モニタリング/測定ソリューションを使用することで、NBC Olympicsは視聴者に優れたQoE (Quality of Experience、ユーザ体感品質) を提供できます」

【問い合わせ先】

テクトロニクス社

TEL: 0120-441-046

◆パナソニック：流通情報革命を目指すトライアルカンパニー・パナソニック・Remmoが連携 革新的な“スマートストア”のオープンを発表

株式会社トライアルカンパニー (本社：福岡県福岡市、代表取締役：榎木野仁司 以下 トライアル) とパナソニック株式会社 (本社：大阪府門真市、代表取締役社長：津賀一宏 以下 パナソニック)、及び株式会社Remmo (本社：東京都千代田区、代表取締役：粥川直人 以下 Remmo) は、3社独自のIT・AI技術を融合させたスマートストア『スーパーセンタートライアル アイランドシティ店』が2018年2月14日(水)にグランドオープンすることを発表した。



この度オープンする「スーパーセンタートライアルアイランドシティ店」では、トライアルが独自に開発した商品動向を分析することができるスマートカメラと、パナソニックが開発した来店者の動きを分析することができるVieurekaプラットフォームを使ったスマートカメラを店内に計700台設置し、その分析結果を元に、商品の見つけやすさや品揃えを改善し、商品棚の欠品を防ぎ、より一層の顧客満足度の向上に役立てていく。また、レジ待ちをなくすためにRemmoとの共同開発で生まれたタブレット決済機能付きのレジカートを導入しており、日本初の“スマートな購買体験”を実現したスマートストアとなっている。

日本の流通業に変革をもたらすため、トライアルは、これまでも“オープンイノベーション”を推進し、自社の開発技術だけでなく、外の優れた企業と共に新たな技術や、サービスを開発する取り組みを率先してきた。また、パナソニックはこれまで家電で培ってきた強みを使い、ビジネスや産学連携のパートナーと共に、新たな価値を創出する活

動に取り組んでいる。更に、スタートアップ企業としてRemmoは小売業、メーカー、ショッパーそれぞれにとっての課題解決パートナーを目指し、デジタルマーケティングによる新たな価値を提供してきた。この度、テクノロジーを活用し、来店者の購買体験をより向上させたいという3社の目指す方向性が合致し、形となったのが「スーパーセンタートライアル アイランドシティ店」。

・スマートカメラの導入

AIを活用したスマートカメラを店内に設置することで、来店者のプライバシーを守りながらも、小売業やメーカーやベンダーの方々が行う売り場の設計や管理を遠隔で行う。その結果、来店者の嗜好に合わせた品揃えをご提供することが可能となる。

◆100台のカメラが人の動きをウォッチし消費行動を分析

パナソニックのVieurekaプラットフォームとPUX株式会社の画像認識エンジンにより、カメラ内で来客の属性と行動の分析を行い、その結果のみをクラウドに直接送信。これによりプライバシーを守りながら来客の行動の可視化・定量化が24時間可能になる。

◆600台のカメラが商品棚をウォッチし商品動向を分析

トライアルが独自に開発した画像認識エンジンと連動したスマートカメラにより、商品棚の商品陳列、商品接触を分析します。商品棚にフォーカスすることで、プライバシーを守りながら商品動向の可視化・定量化が24時間可能になる。

・レジカードの導入

スタートアップ企業であるRemmoがトライアルと共同開発したレジカートには、決済機能及びレコメンド機能が搭載されており、来店者のスマートな購買体験を実現する。

◆決済機能を搭載

ショッピングカートそのものにセルフレジ機能を搭載。専用のプリペイドカードでログインすると、通常のレジに並ぶことなく、ボタン一つで会計を済ませることが可能。買い物客のレジ待ち時間を解消するとともに、昨今、問題となっている小売業のレジスタッフの人手不足を解消する。

◆レコメンド機能を搭載

レジカートに取り付けられたタブレットの画面上には、売り場でスキャンされた商品情報に基づいたレコメンドが表示される。

買い忘れの防止や潜在的なニーズの発見など、買い物客の新たな購買体験を実現しつつ、店頭メディアとして各メーカー・ベンダーに広告・販促機会を提供する。

■スーパーセンタートライアル アイランドシティ店概要

- 住所：福岡県福岡市東区香椎照葉5丁目2-23
- アクセス：JR香椎線 雁ノ巣駅 車7分、JR香椎線 香椎駅 車12分
- 営業時間：24時間営業
- 電話番号：0120-033-559
- URL：<https://www.trial-net.co.jp/cp/dc/0400/>
- オープン：2018年2月14日(水)9:00A.M.

【問い合わせ先】

店舗に関するお客様相談室

TEL: 0120-033-559

◆ブラックマジックデザイン：サンダンス映画祭に出品された55作の映画、シリーズ作品、プロジェクトでBlackmagic Design製品が活躍

サンダンス映画祭に選出された55作以上の映画、シリーズ作品、プロジェクトでBlackmagic Designのデジタルフィルムカメラ、プロ仕様の編集/グレーディング/オーディオポストプロダクション用ソフトウェアであるDaVinci Resolve Studio、Video Assistレコーダー/モニターなどが使用されている。

Blackmagic Designカメラおよび関連製品が使用されたサンダンス映画祭出品プロジェクト:「306 Hollywood」:作曲家のTroy Herion氏が、映画音楽の作曲時にBlackmagic MultiDockでオーケストラ用の仮想楽器にSSDを使用。

「BLAZE」:エディターのJason Gourson氏が、UltraStudio Mini Monitorを使用、DITのScott McLeslie氏(Village Studios)がSmart Videohub、Micro Converter、UltraStudio、DaVinci Resolve(デイリー)を使用。

「Hal」:撮影監督のAdam Michael氏が、カラーグレーディングおよびトランスコーディングにDaVinci Resolveを使用、カメラマンがセレクトショットにPocket Cinema Cameraを使用、さらにBattery Converter HDMI to SDIを使用して、SmartView DuoおよびSmartScope Duoでオンセットモニタリング。

「Half the Picture」:カメラマンがVideo Assistを使用。

「I'm Poppy」:DITのGianennio Salucci氏が、DeckLink 4K Extreme、SmartScope Duo、DaVinci Resolve Studioを使用。

「Paint」:撮影監督のSam Chase氏が、特定のシーンおよびピックアップショットの撮影にPocket Cinema Cameraを使用。

「Search」:撮影監督のJuan Sebastian Baron氏が、FaceTimeシーケンスの撮影用リグにUltraStudio Mini MonitorおよびUltraStudio Mini Recorderを使用、脚本監督のShawn Tira氏が、UltraStudio SDIを使用してスクリーンショットをキャプチャーし、シーン間のフレームラインをマッチング、継続性を確認。

「We the Animals」:撮影監督のZak Mulligan氏が、Micro Cinema Cameraをクラッシュカメラ/インサートカメラとして使用。

「Wildlife」:DITのLeonard A. Mazzone氏が、Smart Videohub 12x12、UltraStudio 4Kを使用。

「Yardie」:撮影監督のJohn Conroy氏がURSA Mini Proを使用。ポストプロダクションでDaVinci ResolveおよびDaVinci Resolve Studioが使用されたサンダンス映画祭出品プロジェクト:

「306 Hollywood」:Sean R. Smith氏(LivelyGroup)がグレーディング。

「Akicita: The Battle of Standing Rock」:Luke Cahill氏(Different By Design)がグレーディング。

「American Animals」:Rob Pizzey氏(Goldcrest Post)がグレーディング。

「Anoté's Ark」:Francis Hanneman(Studio Hanneman)がグレーディングおよびオンライン編集。

「Beirut」:Sam Daley氏(Technicolor PostWorks)がグレーディング。「Believer」:Frederik Bokkenheuser氏(Runway Post)がグレーディング。

「Bisbee '17」:Jason Crump氏(Metropolis Post)がグレーディング。

「BLAZE」:Bill Ferweda氏(Deluxe Toronto)がグレーディング。

「Blindspotting」:Tarek Karkoutly氏がコンフォーミング。編集作業にUltraStudio MiniMonitorを使用。

「Clara's Ghost」:Kyle Krupinski氏がDaVinci Resolve Mini PanelおよびDeckLink HD Extreme 3Dを使用してグレーディング、エディターのPatrick Lawrence氏がプロキシワークフローの一環としてDaVinci Resolveを使用。デイリーの作業にUltraStudio Mini MonitorおよびDaVinci Resolveを使用。

「Come Sunday」:Joe Gawler氏(Harbor Picture Company)がグレーディング。

「Dead Pigs」:Andrew Francis氏(Sixteen 19)がグレーディング。

「Hal」:Luke Cahill氏(Different By Design)がグレーディング。

「Hale County This Morning, This Evening」:Dave Francis氏(Technicolor PostWorks)がグレーディング。

「Half the Picture」:Luke Cahill氏(Different By Design)がグレーディング。

「Hearts Beat Loud」:Mike Howell氏(Color Collective)がグレーディング。

「I Think We're Alone Now」:Tom Poole氏(Company 3)がグレーディング。

「I'm Poppy」:Brian Legoo氏、Jerimiah Morey氏がグレーディング。

「Inventing Tomorrow」:Luke Cahill氏(Different By Design)がグレーディング。

「Jane Fonda in Five Acts」:Ken Sirulnick氏(Glue Editing & Design)がグレーディング。「Juliet, Naked」:Nat Jencks氏(Goldcrest Post)がグレーディング。

「A Kid Like Jake」:Nat Jencks氏(Goldcrest Post)がグレーディング。

「Kusama - Infinity」:Brian Hutchings氏(Different By Design)がグレーディング。

「The Last Race」:John Dowdell氏(Goldcrest Post)がグレーディング。

「Leave No Trace」:Tim Stipan氏(Company 3)がグレーディング。

「Lizzie」:Jason Crump氏(Metropolis Post)がグレーディング。

「Madeline's Madeline」:Nat Jencks氏(Goldcrest Post)がグレーディング。

「Men Don't Whisper」:Kyle Krupinski氏がグレーディング、エディターのPatrick Lawrence氏がプロキシワークフローの一環にDaVinci Resolveを使用。

「Minding the Gap」:Tyler Roth氏(Company 3)がグレーディング。

「The Miseducation of Cameron Post」:Nat Jencks 氏 (Goldcrest Post) がグレーディング。

「Monster」:Tom Poole 氏(Company 3) がグレーディング。

「The Mortified Guide」:Matthew Schwab 氏(Roving Pictures Company) がグレーディング。

「NANCY」:Nat Jencks 氏(Goldcrest Post) がグレーディング。

「Narcissister Organ Player」:Samuel Gursky 氏(Irving Harvey) がグレーディング。「Never Goin' Back」:Neil Anderson 氏(Lucky Post) がグレーディング。UltraStudio 4K も使用。

「Night Comes On」:Taylor Levy 氏が編集。デイリーおよび VFX に DaVinci Resolve を使用。「On Her Shoulders」:Luke Cahill 氏(Different By Design) がグレーディング。

「Our New President」:Joe Bender 氏(Third Party Films) がグレーディング。「Paint」:Tim Massick 氏(Company 3) がグレーディング。

「Pass Over」:Joe Gawler 氏(Harbor Picture Company) がグレーディング。「Piercing」:Sam Daley 氏(Technicolor PostWorks) がグレーディング。「PLUR」:Samuel Gursky 氏(Irving Harvey) がグレーディング。「Private Life」:Alex Bickel 氏(Color Collective) がグレーディング。

「Puzzle」:Joe Gawler 氏(Harbor Picture Company) がグレーディング。

「The Queen of Fear (La Reina del Miedo)」:Damián Benetucci 氏(Cinecolor)、Andrea Bendrich 氏(Rei Cine) がグレーディング。

「RBG」:Ken Sirulnick 氏(Glue Editing & Design) がグレーディング。

「The Rider」:Alex Bickel 氏(Color Collective) がグレーディング。

「Science Fair」:Kevin Cannon 氏(Different By Design) がグレーディング。「Search」:Zachary Medow 氏がグレーディング。UltraStudio 4K を使用。

「Sorry to Bother You」:Sam Daley 氏(Goldcrest Post) がグレーディング。「susaneLand」:Bryan Smaller 氏(Company 3) がグレーディング。

「The Trade」:Seth Ricart 氏(RCO) がグレーディング。

「TYREL」:Sam Daley 氏(Technicolor PostWorks) がグレーディング。

「Un Traductor」:Chris Wallace 氏(Deluxe Toronto) がグレーディング。

「We the Animals」:Seth Ricart 氏(RCO) がグレーディング。

「Wildlife」:Joe Gawler 氏(Harbor Picture Company) がグレーディング。

「A Woman Captured」:Ádám Vándor 氏(Studio Spájz) がグレーディング。

◆ブラックマジックデザイン：New York City Media の「Half-Life」、「Maturity」のパイロット版の編集およびグレーディングに DaVinci Resolve を使用

1 月よりオンエアされる New York City(NYC) Media の 2 つの新番組、「Half-Life」および「Maturity」のパイロット版で、編集およびグレーディングに DaVinci Resolve 14 が使用されたことを発表した。NYC の Mayor's Office of Media and Entertainment(MOME) と、ニューヨーク市立大学ブルックリン校の Feirstein Graduate School of Cinema により、300 本以上のシナリオの中から選ばれたこの 2 本が映像化され、NYC Media を受信する 1 千 8 百万以上の世帯に放送されることになった。

パティ・キャリーペラーゾ(Patty Carey-Perazzo) 氏による脚本、制作の「Half-Life」は、要望の多い家族と映画制作との間で板挟みになっているパティが主人公。ロビン・ローズ・シンガー(Robin Rose Singer) 氏による「Maturity」は、ブロンクスの高齢者介護施設で働き始めたばかりの、カンザス出身の看護師、ジェシカ・メドウブルックが主人公。どちらの作品も NYC で撮影され、Feirstein Graduate School of Cinema でポストプロダクションが行われた。

この 2 つの番組のポストプロダクション・プロデューサーを務めたチャールズ・ハイン(Charles Haine) 氏は、編集チームと相談して、パイロット版の編集とカラーコレクションに DaVinci Resolve 14 を使用することを決めた。2 つの番組のカラーコレクションはアレックス・バーマン(Alex Berman) 氏が担当。「Half-Life」の編集はケイトリン・コルテス(Kaitlyn Cortes) 氏、「Maturity」の編集はリリー・クレイマン(Lily Kleinman) 氏がそれぞれ担当した。

◆ブラックマジックデザイン：ダービー・カウンティ FC、Blackmagic Design の放送ソリューションを導入

イングランドのダービー・カウンティ・フットボール・クラブ(DCFC) が、Blackmagic Studio Camera 4K、Micro Studio Camera 4K、URSA Mini 4.6K を使用したマルチカメラのライブプロダクション・ワークフローを導入したことを発表した。

放送部門の部長、マット・リーダー(Matt Reeder) 氏と最高技術責任者のスチュアート・フィッシャー(Stuart Fisher) 氏の主導により、DCFC は先例のない決定に踏み切った。チャンピオンシップに属するチームとして初めて、イングランド・フットボールリーグ(EFL) の試合や試合前後の映像などの独自コンテンツを、クラブの配信プラットフォームである RamsTV を介して放送するという決定である。

放送コンサルタントである Studio Expert のピーター・ノウルズ(Peter Knowles) 氏により、この画期的なソリューションの要として Blackmagic Design のインフラ製品が採用された。「DCFC は、世界中の 30 万人のファンたちに高品質のコンテンツを届けたいという独自のビジョンを持っていました。」ノウルズ氏は語る。「マットとスチュアートによるプリーフィングはとても野心的なものでした。主要な放送局のコンテンツに匹敵するようなコンテンツを自分たちで作成できる設備を導入するというのです。」

現在 DCFC は、ホームゲームの放送に 11 系統のカメラチャンネルを使用しているが、ノウルズ氏によるとこの規模は拡大し続けているという。「DCFC は、Blackmagic Design の 3 台の 4K スタジオカメラでプレゼンターの映像を予め収録するための専用スタジオを持っています。さらに 2 台のカメラがスタジアムの中央の梁に設置

されており、タッチラインをリモートで撮影するための URSA Mini 4.6K は、試合の前後に行われるインタビューの収録にも使用されています。」

「タッチラインだけでなく、選手の到着時にスタジアムの入り口にも無線受信機を設置しているので、フレキシブルに撮影できます。さらに、ワイドアングルで入場トンネルを捉えられるように1台の Micro Studio Camera 4K が設置されています。これは試合前のラインナップ紹介や準備の様子の撮影にも使用します。」ノウルズ氏は説明する。

すべての設備は24コアシングルモードの光ファイバーネットワークで繋がれ、ライド・パーク・スタジアム中の信号管理には SmartVideohub 40x40 が使用されている。

◆ブラックマジックデザイン：ダービー・カウンティ FC、Blackmagic Design の放送ソリューションを導入

デイビッド・オートキーゼ(David Ortkiye) 撮影監督が、NBC の人気シリーズ、「Better Late Than Never」のシーズン2の車内シーンおよび外観ショットの撮影、モニタリングに、Micro Cinema Camera と Video Assist 4K モニター/レコーダーを使用したことを発表した。

同番組は、ヘンリー・ウィンクラー、ウィリアム・シャトナー、ジョージ・フォアマン、テリー・ブラッドショー、そしてコメディアンジェフ・ダイが世界を旅するリアリティ番組。ミュンヘン、ベルリン、リトアニア、スウェーデン、バルセロナ、マドリッド、モロッコへの、5人組のワイルドで楽しい旅が始まった。番組のテーマが旅であることから、オートキーゼ撮影監督は、持ち運びやマウントに適した小型のカメラで、なおかつシネマライクなルックを得られるカメラを探していた。

「Micro Cinema Camera を選択した理由はいくつかあります。」オートキーゼ撮影監督は語る。「車内の撮影に使用できることはもちろん、時速200キロ強のカーチェイスでもダイナミックに撮影できるカメラを探していました。また、シネマライクな画質が得られることも条件でしたが、Micro Cinema Camera は12-bit RAW cinema DNG で撮影でき、13ストップのダイナミックレンジにも対応しているので、理想的なカメラでした。また、レンズマウントの交換が可能で、使用したいレンズをフレキシブルに取り付けられるので、イメージの一貫性や画質を損なわずに、希望通りの画を撮影することができました。」

Micro Cinema Camera の12-bit RAW とダイナミックレンジは、様々なロケ地での撮影で威力を発揮した。「野原を抜けて森へとドライブしたり、トンネル内や橋の下を走ったりすることが多かったので、ルックをマッチさせるために、ダイナミックレンジとRAWコントロールが不可欠でした。」オートキーゼ撮影監督は続ける。「同番組は中南欧から北アフリカへと旅を進めて行くのですが、番組を通じて色も変遷を迎えます。それぞれの地形によって、カラーパレットのビジュアルは異なりますが、それらをロケーションやエピソードごとにまとめる必要があります。RAW で撮影することで、ディテールを保存して調整することができます。」

これと様に、ロケ地が変わると車の種類も変わる。オートキーゼ撮影

監督と彼のチームは、タクシーから BMW i8 まで、様々な種類の車の内外で Micro Cinema Camera のリグを組んだ。また、ゴーカートやラクダにカメラを取り付けたこともあった。

「BMW を運転するエピソードでは、BMW i8 とそれを追いかける車のフロントバンパーに Micro Cinema Camera をマウントし、時速約210キロで走る BMW を追って撮影しましたが、素晴らしいフッターが撮れました。」オートキーゼ撮影監督はさらに続ける。「モロッコでは、時速95キロで走るゴーカートの前後に Micro Cinema Camera を取り付けたのですが、サスペンションがないため不安定だったんです。しかし、カメラのリフレッシュレートが高かったことで、画像が安定しました。この時点でその他のスポーツ用のカメラは完全に選択から外れましたね。」

各ロケ現場では、タクシーにマウントしたカメラでBロールを撮影した。「すべての国で、タクシーの上から屋根のサインを見下ろす形の主観ショットを撮影したのですが、北アフリカだけは例外で、車の代わりにラクダに乗りました。」オートキーゼ撮影監督は付け加えた。「カメラマンの一人が Micro Cinema Camera を持ってこのタクシー(ラクダ)に乗り、カメラリグを組んで45分ほど"ドライブ"したんです。そういう意味では、非常に"速攻"の撮影でした。Micro Cinema Camera の利点は、大規模なリグが必要ないことです。このため、より効率的にクリエイティブな撮影が可能なんです。」

「この番組はコメディの要素を多分に含んでいるのですが、コメディの撮影では、その場の流れが重要なので、機材の設定などにこだわることはできませんね。」オートキーゼ撮影監督は続ける。「Micro Cinema Cameras のようなツールがあれば、とっさの思いつきで撮りたいと思ったコンテンツでもシームレスに番組に取り入れることができます。例えば、Micro Cinema Cameras を作り物の牛の頭に取り付けて、角の間から追跡ショットを即席で撮影したことがありました。」

「Micro Cinema Camerasのおかげで、信じられないようなシーンをいくつか撮影できました。番組にとって重要なアクションシーンなどです。レンズ交換が可能で、12-bit RAW で撮影できる Micro Cinema Cameras は、その他の小型アクションカメラより一歩抜き出ています。Micro Cinema Camerasのおかげで、厳しい環境の撮影でも希望通りのフッターが得られます。」オートキーゼ撮影監督は最後こう結んだ。

【問い合わせ先】

ブラックマジックデザイン

<https://www.blackmagicdesign.com/jp>

◆朋栄：SECURITY SHOW 2018 出展概要

株式会社朋栄は、2018年3月6日(火)～9日(金)まで、東京国際展示場(東京ビッグサイト)にて開催される第26回セキュリティ・安全管理総合展「SECURITY SHOW 2018」(主催:日本経済新聞社)に出展する(東7ホール ブースNo.SS7718)。

「確かな技術で安全を守る。」をテーマとして継続し、IPカメラに対応した小型画面分割器の新製品MV-16SIPを出展する。同製品のアナログ入出力およびSDI出力のオプションを活用することで、IPカメラ

を既存のアナログ/SDIのシステムと連携して実現する大規模な「画面分割」をはじめ、セキュリティ分野に欠かせない「画像鮮明化」「情報可視化」「大容量記録」に対応可能なソリューションを紹介する。

主な出展製品

■IP対応 小型画面分割器 MV-16SIP

IPカメラの映像をPCレスで最大16分割表示でき、各映像にタイトルを追加表示可能な画面分割器。IPカメラを最大64台まで認識し、ONVIF® Profile S規格対応のIPカメラではパン/チルト/ズーム操作も可能。オプションのMV-16SIPIOを追加することにより、アナログコンポジット3系統の入力、アナログコンポジットおよびSDI出力などを増設でき、IPカメラを既設のアナログ/SDIのシステムや信号処理機器に活用できる。

■画面分割器 MV-1200

3G/HD/SD-SDI、アナログコンポジット、HDMI、DVIの混在入力や、各種解像度の混在入力にも対応する画面分割器。最大16入力・4系統6出力のモニタリングが可能で、監視カメラの映像や各種情報の表示などを自由にレイアウト可能。

■ブレ補正装置 IVS-710HS

港湾、高速道路、橋上など振動の多い環境での撮影時に発生する映像のブレを、リアルタイムに除去可能。風や波の影響を排除して、監視業務を強力に支援する。

■画像鮮明化装置 Mimic-AFC/HD [フローベール製]

既存のモニタリング環境に後付けできる単体ユニットタイプ。霧や雨によりかすんだ映像や暗所の映像を補正して鮮明に表示。オートフォーカス機能も搭載。

■リアルタイム合成装置 MBP-200TB2

入力映像に、文字情報やグラフィックをリアルタイムに描画可能。外部機器からのデータを受けて、映像上にテキストや画像を表示できるリアルタイム情報合成装置。このほか、カメラタイトルや日時などの文字情報や、ロゴなどのグラフィックを組み合わせた、手書きグラフィックスを映像に合成するなど、より視覚的に分かりやすい情報表示を可能にするソリューションを紹介。

■LTOサーバー LTS-70

PCと本体をLANで繋ぐだけの簡単接続で、手のひらサイズのLTO7テープに最大6TB(非圧縮時)のデータを保存可能。膨大な台数のカメラ映像、長時間におよぶ監視録画映像を、効率よく省スペースで保存・管理。外部制御SDK(ソフトウェア開発キット)の提供も可能。

■4K切り出し装置 ZE-ONE

4K映像から、直観的なタッチパネル操作で任意のサイズでHDサイズの映像を切り出して出力できる切り出し装置。

■各種モニターラインアップ [朋栄YEMエレテックス製]

高精細LEDモニターや強化ガラス仕様モニターなど、多彩なラインアップを紹介する。

【問い合わせ先】

株式会社朋栄

TEL:03-3446-3528

◆ローデ・シュワルツ・ジャパン：eCall モジュールの性能を検証できる GNSS パフォーマンステスト・ソリューション



ローデ・シュワルツ・ジャパン株式会社は、GNSS パフォーマンステスト・ソリューションを発表した。2018年4月1日より自動車メーカーはEU内で販売する新しい自動車にeCallモジュールの装備が必要となる。R&S SMBV100A ベクトル信号発生器と自動化テスト・ソリューションは、eCallモジュールに装備されるGNSS受信機へ、標準に準拠した完全自動化された性能テストを提供する。また、30%割引の特別プロモーションパッケージを提供する。

ERA-GLONASSがロシアおよびユーラシア関税同盟に必須となつてからおよそ1年、2018年4月1日現在、欧州では、eCallの装備が必要となる。eCallまたはERA-GLONASSモジュールを車に装備するには、事前に認定を受ける必要がある。認定には、適用可能な標準に準拠した一連の適合性および性能テストが必要となる。

eCallモジュールに統合されたGNSS受信機は、通常、GPS、ガリレオ、衛星ベースの増強システム(SBAS)からの信号を評価して車両の位置を決定する。緊急時にモジュールは自動的に最も近い緊急コールセンターに電話をかけ、車両位置データおよび他の情報を、セルラリンクを介して送信する。報告された位置の精度、および他の性能パラメータが一定の限界内にあることを確認するために、組み込みのGNSS受信機は、EU2017/79、Annex VIおよびUNECE 2016/07の仕様で定義されたテストが必要となる。新しいオプションのR&S SMBV-K361、およびR&S CMWrunシーケンサー・ソフトウェアと組み合わせたR&S SMBV100Aは、EU2017/79、Annex VIおよびUNECE 2016/07の仕様に準拠したeCallモジュールの完全自動化GNSS性能テストに最適。これらのドキュメントで指定されているすべてのテストケースは、このソリューションを使用して自動的に構成、スケジュール設定、実行する事ができる。ユーザーは、eCallモジュールの位置決定機能を迅速かつ簡単に検証し、認証プロセスを大幅に簡素化し、迅速化することができる。

新しいR&S SMBV-K361 eCallテストスイートは、現在ローデ・シュワルツ・ジャパン株式会社より購入可能。ローデ・シュワルツは、eCallモジュール用のこの新しいGNSSパフォーマンステスト・ソリューションを使用して、R&S CMW500およびR&S SMBV100AをベースにしたeCallおよびERA-GLONASSの標準準拠の適合性および性能テスト・ソリューションを提供する。

【問い合わせ先】

ローデ・シュワルツ・ジャパン株式会社

TEL:03-5925-1270

◆エレクトリ：Radial Engineering 社「DiNET DAN-TX」および「DiNET DAN-RX」販売開始

DiNET DAN-TX は、ギター/ベースなどの楽器、ノートPC、タブレット、ラインレベルのソースなどを Dante ネットワークに接続するために設計されたステレオDIボックス。-10dB から +10dB の調整を行う TRIM つまみ、高い入力信号に対応する PAD スイッチ、不要な低域をロールオフする HPF スイッチを装備している。



DiNET DAN-RX は、Dante ネットワークからのオーディオ出力を提供するデバイス。ミキシングボード上のマイク入力やアンプ、パワードスピーカーなどに接続するための XLR バランス出力を装備しています。またモニタリング用のヘッドフォンアンプも搭載している。

【問い合わせ先】

株式会社エレクトリ

TEL: 03-3530-6181

◆ゼンハイザージャパン：NAMM 2018 にて evolution wireless G4 を発表



新しいユーザーインターフェイス、新しいマルチチャンネル機能を搭載した 100 シリーズ、ビジネス・教育施設に向けた 300 シリーズ、ライブハイパフォーマンスの 500 シリーズを含む evolution wireless G4 は、音楽パフォーマンス、ビジネス、教育施設、教会、劇場・ホール、カメラワークなどのための高品質で信頼性の高いオーディオを提供する。evolution wireless G4 のプロダクトマネージャーである Dennis Stegemerten 氏は次のように述べる。「evolution wireless G4 では、G3 シリーズの豊富な機能をさらに拡張しながらも、前世代と同等の魅力的な価格を維持しています。ユーザーからのインスピレーションの多くの改善が含まれており、すべてのシステムは以前の evolution wireless と完全に互換性があり、今までの投資を無駄にしません。」

ライブパフォーマンス:100、500 シリーズ バンド、教会、劇場・ホールに理想的なワイヤレスソリューション。

100 シリーズは、交換可能な evolution マイクカプセルを含む

Vocal Set、Instrument Set、Headmic Set、Lavalier Set、ENG Set がラインナップされます。すべての送信機と受信機も別々に利用できる。

G3 と比較して、100 シリーズは新しいマルチチャンネル機能を備えている。データケーブルをダイジチェーン接続することで、複数台受信機のイーザーセットアップ、同時プログラミングが可能。Set モデルにはダイジチェーンケーブルが付属し、ラックマウント金具も付属している。G3 のオレンジ色の LCD ディスプレイは、高コントラストのモノクロ LCD ディスプレイに置き換えられた。さらに便利で迅速な操作のためのシンク LED とエスケープボタンも新しく追加された。100 シリーズのハンドヘルドは、軽量の新しいアルミニウムハウジングと、オーディオ信号を完全に制御するシンガーやスピーカー用のプログラム可能なミュートスイッチを備えている。

ew G4 500 シリーズは、拡張された機能セット。スペクトルの柔軟性、および Wireless Systems Manager ソフトウェアによって提供される追加の制御オプションを必要とするバンド、劇場・ホール、教会に理想的。

500 シリーズは、自動調光、便利なジョグホイール、青色の同期 LED、赤色の警告 LED、ナビゲーションをはるかに容易にするエスケープボタン付きの、コントラストの豊かなモノクロ OLED ディスプレイを採用しました。より難しい RF 環境に適応し、軽量デザインのボディバック送信機は湿度や湿気から保護する。

ビジネスと教育施設:300 シリーズ

企業、ホスピタリティ、教育施設に向けた 300 シリーズは、e865 マイクヘッド付きの Vocal Set、ME 2-II クリップオン付きの Lavalier Set、SL HEADMIC 1 付きの Headmic Set のラインナップで講演者の選択枝を広げる。

また、300 シリーズでは、既存の進化型ワイヤレスシステムを更新または拡張するための費用対効果の高い方法であるベースセットが新たに追加された。すべてのベースセットにはレシーバとトランスミッターが含まれているが、マイクやマイクのヘッドがなくても、既存のアクセサリと一緒に使用できる。ハンドヘルドまたはボディバックを含む基本セットがある。また、ハンドヘルド、ボディバック、レシーバも別途注文可能。

300 シリーズは、500 シリーズと同じ新しいユーザーインターフェイスを特長としている。ボディバックの湿度に対する保護も改善された。統合されたネットワークポートにより、Wireless Systems Manager または便利な Sennheiser Control Cockpit ソフトウェアによるリモートコントロールと監視が可能。

【問い合わせ先】

株式会社エレクトリ

TEL: 03-3530-6181

◆アイ・ディ・ケイ：IDK デジタルマルチスイッチャーに新機種を投入

デジタルマルチスイッチャー MSD-62 シリーズは、EIA 2U ラックサイズながら、3 出力から最大 8 出力まで対応。これまで、大型スイッチャーを導入しなくてはいけなかった中～大規模の AV システム構築の

コストダウンに貢献する。MSD-62 シリーズは、同社デジタルマルチスイッチャの特長である映像・



音声のスイッチングやプロジェクターの電源制御、電動スクリーンのコントロール機能を備えながら、新たな特長としてHDMI 壁コンセントやフロアコンセントから直接接続可能なHDBaseT 入力を2 系統装備。各出力にもプロジェクター等の表示機器までのビデオ延長用にHDBaseT 出力を備えており、最大で150m までHDMI 信号を延長可能。(HDMI/HDBaseT 切替使用)

また、MSD-62 シリーズは映像機能モードの切り換えにより、4K 解像度の入出力もしくは、HD 解像度以下の4 画面合成にも対応できる。

さらに、オプションでネットワークオーディオ (Dante 出力) を用意しています。ネットワークオーディオを使用すると、サンプリング周波数48 kHz、64 チャンネルの音声を1 本のLAN ケーブルで送信できます。

◆主な特長◆

■ 映像

- ・ 最大解像度 4K@30
- ・ HDCP 1.4 対応
- ・ Cat6 ケーブルで最大150 m 延長可能
- ・ 動き適応型/P 変換
- ・ スキャンコンバート機能
- ・ アスペクト保持機能
- ・ 疑似シームレス切替※2
- ・ A/D 変換出力
- ・ アンチストーム機能

■ 音声

- ・ 音声A/D、D/A 変換機能
- ・ 音声入出力レベル補正機能
- ・ リップシンク機能
- ・ Dante 出力 (オプション)

■ 画面合成※3

- ・ 最大4 入力映像の4 画面合成出力
- ・ ウィンドウごとの表示優先順位設定
- ・ ウィンドウごとの左右反転
- ・ ウィンドウごとの表示ON / OFF 設定

■ 制御入力

- ・ RS-232C、LAN

■ 制御出力

- ・ 制御コマンド出力機能 (プロジェクター制御など)
- ・ PjLink 対応
- ・ CEC によるシンク機器の電源制御
- ・ コンタクトクロージャ

■ その他

- ・ PoH 給電機能 (HDBaseT 入力)

- ・ EDID エミュレート機能 (コピー機能付)
- ・ 全機能設定ブラウザ搭載
- ・ 入力チャンネル自動切替
- ・ 映像音声非連動切替対応
- ・ クロスポイントメモリ機能
- ・ プリセットメモリ機能
- ・ ラストメモリ機能
- ・ コネクションリセット機能
- ・ オペレーションロック機能

【問い合わせ先】

株式会社アイ・ディ・ケイ

TEL: 046-200-0764

◆CEATEC JAPAN 2018 : ICPS/IoT 総合展、10月16日 (火) から4日間、幕張メッセにて開催決定

一般社団法人電子情報技術産業協会、一般社団法人情報通信ネットワーク産業協会、一般社団法人コンピュータソフトウェア協会の3団体で構成するCEATEC JAPAN 実施協議会は、2018年10月に「CEATEC JAPAN 2018」を幕張メッセ (千葉市美浜区)にて開催する。今年で19回目を迎えるCEATEC JAPAN は、家電見本市の枠を超え、CPS/IoT の革新技術が集結する総合展示会として、Society 5.0 の実現に向けて動き出した、あらゆる産業・業種による「共創」を世界に向けて発信する。開催テーマは「つながる社会、共創する未来」(英語表記 :Connecting Society, Co-Creating the Future)、会期は10月16日 (火)~19日 (金)の4日間。

CEATEC JAPAN 2018 は、「政策」「産業」「技術」が連携する日本随一の総合展示会として、産業・業種を超えた「共創」によるビジネスの創出を一層加速させる。本年は「電子部品/デバイス & 装置」「AI (人工知能) /ビッグデータ」「5G」「サイバーセキュリティ」の4つを注目のテクノロジーに、「モビリティ/ロジスティクス」「スマートファクトリー」「スマートワーク」「エネルギー/スマートライフ」「フィットネス/ヘルスケア」「エンターテインメント」の6つを注目のインダストリー/マーケットとして新たに設定し、CPS/IoT を活用するエレクトロニクス、モビリティ、ロジスティクス、工作機械、住宅、インテリア、ヘルスケア、エネルギー、玩具など、さまざまな産業・業種におけるフロントランナー企業の出展を幅広く募集する。

CEATEC JAPAN 2018 の出展者募集は2月20日 (火) に受付を開始し、4月27日 (金) が優先申込期限となる。(以降は満小間になり次第、受付を終了)

また、主催者企画として、ユーザ企業がサービスを紹介する「IoT タウン」、次世代を担うベンチャー企業が出展する「スタートアップ & ユニバーシティエリア」、海外諸機関による「グローバルエリア」の展開を予定している。

【問い合わせ先】

CEATEC JAPAN 実施協議会

TEL: 080-7749-2249
